

「先生のための和楽器教室」紹介（音楽科）

1 はじめに

この講座は、学習指導要領改訂により音楽科において和楽器の学習が必修になったことに伴い、平成15年度から県内のすべての校種の先生方を対象に、土曜日を利用して開講しています。先生方の自主的な参加により支えられ、これまでに延べ200人を越える受講者が、箏、三味線、篠笛、雅楽といった内容を研修してきました。

2 講座の内容

今年度は、学校で最も多く指導が行われている内容に立ち返り、5月12日に箏講座、同26日に三味線講座を開講しました。休日にもかかわらず、二つの講座で延べ26名の参加をいただきました。

箏講座では、福島市出身で現在は埼玉県を拠点に活躍なさっている浅川尚子先生に、三味線講座では福島市で長年演奏活動及び後進の指導に尽力なさっている桂文子先生、加藤和子先生の両氏にご指導いただくことができました。

各講座では、基礎的な内容から実習を通して研修し、一人一人の疑問やつまずき等にきめ細かくご指導をいただきました。また、指導に生かせる教材のレパトリーも多数ご紹介いただきました。

3 成果と今後の課題

研修者の和楽器経験は様々で、これまでも継続して研修している方の他、今回の講座により和楽器の演奏や「先生」にお習いするのが初めての機会になったという方も多く参加されていましたが、講師の先生方の適切なご指導により、それぞれの経験やスキルに応じて課題を見いだすことができました。また、楽器の仕組みと構え方、絃の張り方、調弦による音色の味わいの変化など、実習を通して一つ一つの事柄に込められている意味や精神に触れられたことで、日本の伝統音楽のもつ魅力や楽しみ方を感じ取れるものとなりました。研修者からは、講座を通して今後の教材研究の契機となったという感想を得ることができました。

和楽器指導が必修となってから数年の間に、学校で和楽器を学べる環境が整備されるようになってきたこと、これらの指導を自信を持って行える先生方が増えてきたことなどから、子どもたちの日本の伝統音楽の学習は進んでいます。一方では、授業における和楽器の学習が、技能的な体験に留まっている実態があることも指摘されています。実際に和楽器の演奏を体験する活動も大切ですが、本来、音楽科教育において和楽器指導が導入された趣旨は単に知識や技術の獲得だけではないとされており、今後は授業づくりを工夫・改善することも課題として挙げられます。

4 おわりに

今回の研修における圧巻は、何といても各講座の終わりに行われた講師の先生方による演奏でした。目の前で、プロによる、気迫のこもった演奏を聴く機会がもたらしたものは、日本の伝統音楽のもつ独特な間、音色、速度の変化、それらが生き生きと語る音楽を五感で感じる体験でした。それは講座を通して得たものがより鮮明に刻まれ、子どもたちへ伝えるべきことは何かを問い直す手がかりになるものとなりました。

箏講座の様子



三味線講座の様子

